

新年度を迎え、気候も暖かな陽気が続き、気分新たに活動的になってくる季節です。しかし、季節の変わり目は体調を崩しやすい時期でもあります。朝晩は冷え込むこともあるので、体温調節ができる服を用意するなど気を付けましょう。

ファミリー健康相談は、24時間年中無休で対応可能です。顧問医や保健師・看護師などの資格を持つヘルスアドバイザーが適切にアドバイスしますので、ぜひご利用ください。



ファミリー健康相談ではこんな相談が・・・

Q： ソフトコンタクトレンズをつけたままの状態であたふた寝ってしまった時、コンタクトレンズが外れにくくて困ることがある。その場合の良い外し方を知りたい。

A： コンタクトレンズが外れない原因の多くは、レンズが乾燥して目に貼りついている状態です。無理に外そうとすると角膜が傷つく危険があるため、まずは慌てずに瞼の内側に水分を補給して潤しましょう。方法としては、コンタクトレンズと目を目薬などで潤すと良いです。コンタクトレンズが動くようになったら、角膜を傷つけないようにゆっくりと外してみましょう。注意点として、コンタクトレンズを装用したまま目薬を点眼する場合、防腐剤を含まない「人工涙液目薬」を使用するか、眼科医の指示に従うようにしましょう。目薬がない場合には、「清潔な洗面器に入れた水に顔をつけ、まばたきをゆっくり繰り返す」「蒸しタオルなどで目を温める」「手の平で目の周りを覆う」なども有効な対処法です。それでもコンタクトレンズが外れない、レンズがどこにあるか分からない場合には、目の隅にある可能性やコンタクトレンズの破損の可能性も考えられるため、無理に外さずに眼科に行くことをおすすめします。

顧問委からのメッセージ

今月のテーマは、
〈リウマチ〉



関節リウマチとは、免疫システムの異常からくる病気で、全国に70万～80万人ほど患者さんがいるとされています。男女比は1対4と女性に多く、働き盛りの30～50歳代が発症のピークと考えられています。

免疫の異常により関節を裏打ちしている滑膜という組織に持続的な炎症が生じる疾患で、典型的には手の指や足の指などの小さい関節に対称性に関節炎が生じます。長い間、無治療が続くと関節の変形をきたしますが、発症後まもなく医療機関を受診し、正しい診断を受け、「免疫抑制剤」を使うことができれば、現在はほとんどの方が「寛解（病気が一時的に軽くなり消えたりした状態）」になることができます。

関節の痛みを感じたら、関節リウマチを疑い医療機関を受診することはとても大切です。しかし、関節の痛みを感じることはさまざまな原因から起こります。一番多いのは変形性関節症です。これは関節を構成する組織に変性、変形が起こる病気です。原因は加齢、肥満、長年の関節への負担等といわれ、とても痛く、変形してしまいます。治療として痛みの緩和や関節機能の維持を行います。この変形を止める術はありません。他には更年期や感染症に伴って関節痛がでることもありますが、これらは治療を要せず、自然に回復することがあります。痛風は治療が必要な疾患になり、しばしば関節リウマチとの鑑別が重要になりますが、足の指にでることが典型的です。関節の痛みを感じたらなるべく早く医療機関を受診していただきたいのですが、参考になる症状として、朝のこわばりが30分以上ある、関節が腫れる、痛みが数週間持続する、などがあります。最近の話題として、関節リウマチは歯周病や喫煙との関連が示唆されているため、口腔内の衛生を保つことも心がけてみてください。

ご自身やご家族の健康で気になることがありましたら、ぜひファミリー健康相談をご活用ください！
ダイハツ健康保険組合の専用電話番号は 0120-921-420 です。